



こんぴらさん障壁画の謎

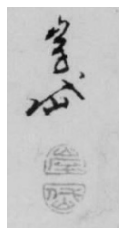
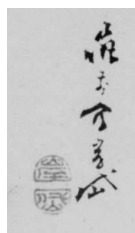
—若冲・岸岱をめぐって—

【第13章】

岸岱一行その後

善願寺天井画

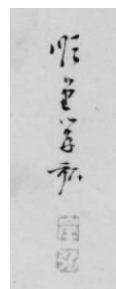
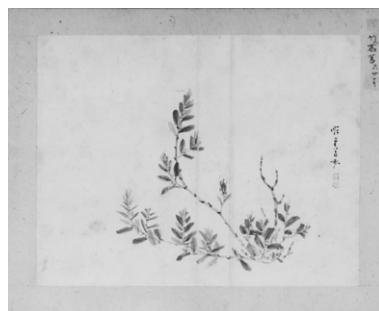
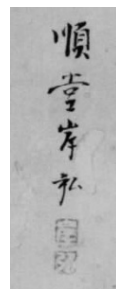
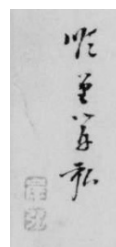
岸岱、有芳、岸順堂の3名が制作に携わった作品として、天保13年(1842)複数名の画家が揮毫した大口金谷編《爾雅釈草図》2帖(関西大学図書館蔵)がある。



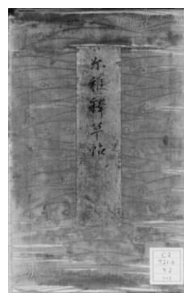
岸岱



近藤有芳



岸順堂



爾雅釈草図 紙本着色ほか
19.2×24.4 (関西大学図書館蔵)

また、弘化3年(1846)に岸派一党で制作した京都・善願寺天井画の《花卉図》に岸岱、有芳、岸順堂が参加している。全部で120点あり、岸順堂は7点、有芳は5点、岸岱は3点描いている。中心部に近いほど格付けが高くなり周縁へいくほど格付けが低くなる特徴が



— 若沖・岸岱をめぐって —

認められるという。岸岱はほぼ中心近く、有芳は5点中最外周が1点・外から2周目が3点・外から3周目が1点と周縁部に位置している。岸順堂は7点中最外周が6点・外から2周目が1点と位置による格付けがあるならば低位の扱いである。

田島達也氏は、順堂自身の実力不足もあったかもしれないがかなり厳しい格付けといわざるを得ない¹、と述べている。善願寺天井画制作において岸順堂は有芳よりも低序列の扱いにみえる。『金光院日帳』に記された順番も「門人有芳、岸光」と有芳が先であり、障壁画の謝礼も有芳に金貳百疋、岸光に昆布包と記される²。

有芳が順堂より年長で兄弟子なのか、実力が上と見做されていたのかは分からないが、岸順堂は岸駒最後の弟子として岸姓が与えられたものの、善願寺天井画の格付けを見る限り、派内においては扱いが低く、奥書院に岸順堂署名の作品がないのも、弘化4年(1847)に名を変え郷里(福島県)に帰ったのまにかそのあたりの事情があったのだろうか。

順堂は帰郷後も制作を続け明治15年(1882)第一回内国絵画共進会で入選し、地元では石城の岸駒と称されたという³。息子の弥朔(安政元年(1854)生)は画を父の岸弘に学び、同じく石城を名乗った⁴。

岸岱は、安政2年(1855)御所の障壁画制作に参加し、御常御殿二の間「花鳥図」、御学問所中段の間「蘭亭図」、皇后宮常御殿御寝の間小襖「駒迎図」、諸大夫間虎の間「虎図」の部屋を担当している⁵。

ちなみに御常御殿御寝の間には、表書院の円山応挙筆《遊虎図》「水呑みの虎」と同構図で慶応3年(1867)に土佐左文が《竹ニ虎図》を描いている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	□木 桜	鶴山 ヤツテ	龍山 梅	順堂 鳥?	鶴山 波響花	順堂 秋海棠	□子 菊	岸良 菊	致道 石路	順堂 種不明	□子 薄	岸良 芙蓉
2	南洋 菊	素山 藤	有芳 不明	□木 百合	松安斎 菊	□木 石櫛	致道 水葵	有芳 系	岸礼 河骨	□子 桔梗	南洋 木槿	楚山 百合
3	鶴山 棠種	□子 百合	□子 朝顔	遠山 不明	冠岳 鶏頭	鶴山 牡丹	文紀 百合	岸礼 蓮	岸誠 撫子	南洋 牡丹	楚山 梅	順堂 不明
4	楚山 ヒルゴオ	岸良 枇杷	宜守 山吹	龍山 雨天	岸良 浜木綿	岸良 牡丹	冠岳 万年青	遠山 蓮	岸良 紅葉	岸良 芙蓉	岸駒 石槿花	楚山 不明
5	九和 萱草	□子 百合?	遠山 山梔子	岸慶 不明	秋架 華草	岸慶 秋海棠	岸良 菊	岸礼 菊	致道 不明	岸慶 杜若	龍山 不明	岸山 不明
6	素山 牡丹	岸良 葛	□子 不明	文政 芍薬	遠山 萩	景文 黄菊	岸良 菊	龍山 百合	岸良 水葵	遠山 山吹	南洋 山吹	冠岳 鉄線
7	順堂 杜若	致道 藤	素山 萩	岸慶 藤	秋架 木蓮	岸慶 木蓮	遠山 蓮	九和 紫陽花	岸慶 簪・椿	岸山 不明	楚山 石路	順堂 藤
8	南洋 菊	冠岳 紫陽花	□子 水仙	有芳 不明	岸礼 黄菊	岸岱 菊	貞敬 菊	冠岳 牡丹	龍山 水仙	遠山 萩	順堂 秋海棠	岸駒 梅
9	楚山 不明	岸駒 不明	遠山 黄菊	岸良 不明	遠山 蘭	奇事 菊	龍山 菊	有芳 芙蓉	南洋 紫陽花	岸駒 菊	□子 菊	龍山 山茶花
10	岸駒 牡丹	楚山 茶	南洋 藤	致道 百合	九和 杜若	有芳 藤	岸礼 不明	岸駒 不明	龍山 桜	南洋 梅	楚山 梅	□子 百合

善願寺天井画「花卉図」見取図

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	□木 桜	鶴山 ヤツテ	龍山 梅	順堂 鳥?	鶴山 波響花	順堂 秋海棠	□子 菊	岸良 菊	致道 石路	順堂 種不明	□子 薄	岸良 芙蓉
2	南洋 菊	素山 藤	有芳 不明	□木 百合	松安斎 菊	□木 石櫛	致道 水葵	有芳 系	岸礼 河骨	□子 桔梗	南洋 木槿	楚山 百合
3	鶴山 棠種	□子 百合	□子 朝顔	遠山 不明	冠岳 鶏頭	鶴山 牡丹	文紀 百合	岸礼 蓮	岸誠 撫子	南洋 牡丹	楚山 梅	順堂 不明
4	楚山 ヒルゴオ	岸良 枇杷	宜守 山吹	龍山 雨天	岸良 浜木綿	岸良 牡丹	冠岳 万年青	遠山 蓮	岸良 紅葉	岸良 芙蓉	岸駒 石槿花	楚山 不明
5	九和 萱草	□子 百合?	遠山 山梔子	岸慶 不明	秋架 華草	岸慶 秋海棠	岸良 菊	岸礼 菊	致道 不明	岸慶 杜若	龍山 不明	岸山 不明
6	素山 牡丹	岸良 葛	□子 不明	文政 芍薬	遠山 萩	景文 黄菊	岸良 菊	龍山 百合	岸良 水葵	遠山 山吹	南洋 山吹	冠岳 鉄線
7	順堂 杜若	致道 藤	素山 萩	岸慶 藤	秋架 木蓮	岸慶 木蓮	遠山 蓮	九和 紫陽花	岸慶 簪・椿	岸山 不明	楚山 石路	順堂 藤
8	南洋 菊	冠岳 紫陽花	□子 水仙	有芳 不明	岸礼 黄菊	岸岱 菊	貞敬 菊	冠岳 牡丹	龍山 水仙	遠山 萩	順堂 秋海棠	岸駒 梅
9	楚山 不明	岸駒 不明	遠山 黄菊	岸良 不明	遠山 蘭	奇事 菊	龍山 菊	有芳 芙蓉	南洋 紫陽花	岸駒 菊	□子 菊	龍山 山茶花
10	岸駒 牡丹	楚山 茶	南洋 藤	致道 百合	九和 杜若	有芳 藤	岸礼 不明	岸駒 不明	龍山 桜	南洋 梅	楚山 梅	□子 百合

同見取図に、岸岱は黄色、有芳は青色、岸順堂は赤色にて位置を示した



天井画「花卉図」



岸岱 蘭図 F-8



岸順堂 櫻栗図 L-7

田島達也「岸派の序列—善願寺天井画「花卉図」」
図録「企画展 岸派とその系譜—岸駒から岸竹堂へ—」(栗東歴史民俗博物館)より転載

① 田島達也「岸派の序列—善願寺天井画「花卉図」」p.73

② 『金光院日帳』には

門人

金貳百疋 有芳

昆布包 岸光

と記されるが、門人である有芳と岸光の両名に金貳百疋と昆布包の謝礼を渡したという記述の可能性も考えられる。

③ ④明珍健二「山中東江絵画資料について」『岸派とその系譜—岸駒から岸竹堂へ—』p.78

④ ①「第二回内国絵画共進会出品人略譜」に「小松彌朔石城ト號ス磐城國磐前郡永崎村二住ス小松順平(號岸弘)ノ男ニシテ安政元年三月朔日生ナリ画ヲ父ニ學フ」とある。

⑤ ⑤渡辺誠「秘蔵写真で愉しむ 京都御所 宮廷の建築・障壁画」p.71

参考文献

①農商務省博覧会掛編「第二回内国絵画共進会出品人略譜」國文社、1884

②「企画展 岸派とその系譜—岸駒から岸竹堂へ—」栗東歴史民俗博物館、1996

③田島達也「岸派の序列—善願寺天井画「花卉図」」(同書所収論文)

④明珍健二「山中東江絵画資料について」(同書所収論文)

⑤渡辺誠「秘蔵写真で愉しむ 京都御所 宮廷の建築・障壁画」TAC、2010